

2015.12.11

# JADCI NEWS No.43



The Japanese Association for Developmental & Comparative Immunology

<http://plaza.umin.ac.jp/~jadci/>

## 目次

- ・「ご挨拶」笠原 正典 2
- ・「日本比較免疫学会古田賞を受賞して～ 思い込みを排して、思い入れを持って」  
中尾 実樹 3
- ・「古田奨励賞受賞にあたりまして厚くお礼申し上げます」小林 雄毅 4
- ・「古田トラベルアワード受賞に厚く御礼申し上げます」稲田 真理 5
- ・「日本比較免疫学会第27回学術集会を終えて」宮台 俊明 7
- ・「日本比較免疫学会第28回学術集会へのお誘いとご案内」和合 治久 9
- ・「事務局からのお知らせとお願い」11
- ・「平成27年度日本比較免疫学会総会議事録」13

### 日本比較免疫学会 役員 (2014.9～2016.8)

会長：笠原 正典 (北海道大学)  
副会長：中尾 実樹 (九州大学)  
庶務・会計：倉田 祥一郎 (東北大学)、補助役員 矢野 環 (東北大学)  
学術集会担当：丸山 正 (海洋研究開発機構)、末武 弘章 (福井県立大学)  
会計監査：中西 照幸 (日本大学)、川畑 俊一郎 (九州大学)  
広報担当：飯島 亮介 (帝京大学)、佐々木 年則 (感染研)

発行者：日本比較免疫学会長 笠原 正典

事務局：庶務担当 倉田 祥一郎  
住所 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3  
東北大学大学院 薬学研究科 生命機能解析学分野  
事務局 e-mail: jadci2office@gmail.com  
電話 022-795-4555 (ダイヤルイン) FAX 022-795-6802  
郵便振替 口座番号 01730-9-80586  
加入者名 日本比較免疫学会

学会ホームページ <http://plaza.umin.ac.jp/~jadci/>

## ご挨拶

日本比較免疫学会会長 笠原 正典

会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。常日頃、学会の運営にご支援、ご協力を賜りありがとうございます。

今年の日本比較免疫学会学術集会は宮台俊明集会長（福井県立大学教授）のもと、8月21日から23日の会期で小浜市働く婦人の家において開催されました。学術集会のメインテーマは「寄生虫感染症に対する免疫」でした。横山博先生（東京大学）が「魚類寄生粘液包虫症の感染メカニズム」と題して特別講演をされた他、「寄生虫 vs. 宿主免疫」と題するシンポジウムが企画され、5名のシンポジストから寄生虫免疫のさまざまな側面について、最新の研究成果が紹介されました。古田賞を受賞された中尾実樹先生（九州大学）からは「魚類の補体系における成分の多重化とその意義」と題する古田賞受賞講演があり、長年にわたる先生の補体研究の集大成が披露されました。また、古田奨励賞は小林雄毅さん（九州大学）、古田トラベルアワードは稲田真理さん（水産総合研究センター）に贈呈されました。改めて、受賞者の皆様にお祝いを申し上げますとともに、このように素晴らしい学術集会をお世話下さった宮台俊明先生ならびに福井県立大学の皆様に厚く御礼申し上げます。

本会名誉会長であった古田恵美子先生は昨年、

ご遺言により本会に再度、ご寄附を寄せられました。これを機に、従前の古田賞、古田奨励賞に加えて、今年から若手研究者の国際比較免疫学会への参加を支援する古田トラベルアワードが新設されたのは御存じのことと思います。本年度の学術集会総会において、吉田彪前会長からトラベルアワードの他にも若手支援の方策を考えてはいかがかというご提言をいただきました。これを受けて、学術委員会、将来計画委員会、役員会で審議した結果、新たに古田優秀論文賞を設けることになりました。優れた原著論文を毎年1編選定し、その筆頭著者の方を顕彰します。詳細については別途ご案内いたしますが、本賞が若手研究者の研究意欲をさらに高めることを期待しております。

来年の第28回日本比較免疫学会学術集会は埼玉医科大学 保健医療学部の和合治久教授を集会長として、平成28年8月18日から20日にかけて東京医科歯科大学を会場として開催されます。「比較免疫研究の温故創新」、「無脊椎動物の共生・寄生の免疫機構」の二つのシンポジウムを予定しているとのことです。皆様には多数ご参会くださいますようお願いいたします。今後とも学会の運営に変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。

§  
§

## 思い込みを排して、思い入れを持って

中尾 実樹

九州大学大学院農学研究院

この度は日本比較免疫学会古田賞をご授与いただき、誠にありがとうございました。笠原会長、ご推薦くださいました川畑先生、そして選考委員の皆様は厚く御礼申し上げます。

私は、九州大学農学部水産化学第一講座で矢野友紀先生のご指導の下で、1984年に魚類の免疫系に関する研究を始めました。淡水魚のコイをモデルとして、最初は補体による溶血反応の解析や幾つかの補体成分タンパク質の精製に取り組んでいました。

タンパク質レベルで補体成分を単離・同定する研究に行き詰まりを感じていた1996年頃、当時名古屋市立大学におられた野中勝先生のご指導・ご助力により、コイ肝臓のcDNAライブラリーをλファージで作成させていただきました。出来上がったライブラリーから、大学院生であった於保理恵さんと無津呂淳一君が、少しずつ配列が異なるC3の全長cDNAをブランクハイブリダイゼーションで次々とクローニングし、約5 kbpの塩基配列を何本も素早く正確に読んでくれました。

B因子の多重化は、上記肝臓ライブラリーから1997年に私自身が単離した配列と、当研究室の藤木和浩さんが作った腹腔内浸潤白血球のcDNAライブラリーから1999年に釣れた配列が、大きく異なることから判明しました。

C4に配列が大きく異なる二つのアイソタイプが存在することは、1999年に無津呂さんが肝臓ライブラリーから苦労して単離したcDNAクローンの推定アミノ酸配列が、並行して血清から精製していたC4タンパクのN末端配列と全く合わない！という「悲劇」を契機に分かりました。このコイC4タンパクは、Oxford大学のAlister Dodds博士から1997年に直伝されたヒトC4の迅速精製法を改良して、その頃ちょうど精製にこぎつけたところでした。

このように沢山の方々のご助力といくつもの幸運に恵まれて、魚類における補体成分の多重化に関する研究を進めることができました。当初は、1981年にnurse sharkの補体系で報告されていたように、主要な補体成分タンパク質のすべてを硬骨魚類の血清からも単離同定することを目指していましたが、コイを使った理由は単にサイズが大きく、温暖な福岡の研究室で容易に入手・飼育可能な魚であることぐらいでした。結果的にはコイを使って研究を進めたことが、補体成分の高度な多様性と出会う決定的な要因となりました。受賞講演で告白致しましたように、コイC3タンパク質を精製していた1989年頃から、コイC3が高度に多様化していることを「カー杯」示唆するデータと出会っていました。残念ながらその時はserendipityが不足し、間違った仮説に拘泥して時間と努力を無駄に費やしました。「思い込み」の怖さを痛感いたします。適切な仮説を立て、自分自身をconvinceで

きるデータを得られるように、周到な計画のもとで注意深く実験を行うことの重要性を後進に伝えていきたいと思ひます。

恥ずかしながら、偽四倍体種であることさえ知らずにコイを使って補体の研究を始め私ですが、コイを対象とした補体研究には今後もこだ

わっていききたいと思ひます。ゼブラフィッシュとギンブナと一緒に活用すれば、これらコイ科魚類は自然免疫と獲得免疫の機能的協調を理解するための様々な研究が可能です。これからも、コイに思い入れを持って、比較免疫学研究に邁進したいと考えております。JADCIの皆様のますますのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

§  
§

## 古田奨励賞受賞にあたりまして厚くお礼申し上げます

小林 雄毅

九州大学大学院理学研究院生物科学部門

この度は、「カプトガニ体液凝固因子 factor B のリポ多糖依存的な活性化機構」というタイトルで口頭発表を行い、栄誉ある日本比較免疫学会古田奨励賞を受賞させていただきました、九州大学大学院理学研究院の小林雄毅と申します。本受賞にあたりまして、日本比較免疫学会会長の笠原正典先生をはじめ、選考委員の先生方、大会事務局の先生方ならびに学会運営に携わっていただきました会員の皆様方に厚くお礼申し上げます。また、古田奨励賞の創設者であります故古田恵美子名誉会長に深く感謝申し上げます。

本学術集会における発表は今回が初めてとなりますが、以前にスタッフとしてお手伝いをさせていただいたことがあります。そこで比較免疫学会ならではの多様な発表を聞き、次は自分も発表する側として参加して、奨励賞を受賞できるような研究をしていきたいという思いが密かにありましたので、今回の受賞は非常にうれしく思っております。発表後も多くの先生方に

声をかけていただいたことは、今後の励みになるとともに、より一層の努力をしなければという思いを改めて強くしました。

さて、カプトガニの体液凝固因子は、当研究室において40年近く研究が行われている歴史の長いテーマの一つです。カプトガニの体液は、グラム陰性菌の表層成分であるリポ多糖(LPS)に敏感に反応し、凝固することが知られています。一方で、LPSはヒトの血液へ混入してしまうと、敗血症など重篤な症状を引き起こす原因となります。このためカプトガニの体液は、注射液や透析液などへのLPS混入を調べる検査試薬として利用されています。LPS認識による体液凝固反応は、セリンプロテアーゼ前駆体であるfactor C、factor B、凝固酵素前駆体、また凝固タンパク質であるコアギュローゲンによる一連のカスケード反応となっています。私は哺乳細胞による体液凝固因子の組換え体を作製し、それらを用いた機能解析を行っております。一言に組換え体と言いますが、反応開始因子である



factor Cは、組換え体発現では当たり前のように発生する末端アミノ酸配列のわずかな変化によって活性化しなくなるということを近年見出しました。この特徴はfactor Cを組換え体として作製する上で一つの障害となってしまいましたが、それと同時にプロテアーゼ前駆体の自己触媒的な活性化が、繊細な分子メカニズムによって制御されているということを改めて実感しました。また、活性化したfactor Cは合成ペプチド基質に対してArg残基のC末端側を切断するトリプシン様の活性を示しますが、天然基質であるfactor Bに対しては、Ile-Ile間の切断を行い活性化しません。今回、このfactor Bに対する基質特異性がLPS依存的なものであり、またfactor BもLPSに結合することを新たに見出しました。これらの活性化機構はLPS表面上の反応であると考えられ、カプトガニの体液凝固もヒトの血液凝固

における細胞膜上の反応のように、膜表面上における局所的な制御を受けているのではないかと推定されます。分類学上でははるか昔に分岐し、独自に進化してきたと考えられているカプトガニですが、その体液凝固反応の部位局所的な制御機構がヒトの血液凝固反応の制御機構に類似しているということは、とても興味深く、今後はこの点や他の凝固因子である凝固酵素前駆体やコアグュロゲンも含めた反応機構も明らかにしていければと考えております。

末筆になりますが、本研究を進めるにあたって、日頃より親身なるご指導をしてくださっている川畑俊一郎教授をはじめ、サポートをいただいている多くの方々に感謝申し上げます。また、日本比較免疫学会の皆様におかれましても、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

§  
§

古田トラベルアワード受賞に厚く御礼申し上げます

稲田 真理

国立研究開発法人増養殖研究所 魚病診断・研修センター

この度は、「MIF family, Cytokine Homologue Genes, in Kuruma Shrimp *Marsupenaeus japonicus*」というタイトルで栄誉ある日本比較免疫学会古田トラベルアワードを頂き、第13回国際比較免疫学会（13<sup>th</sup> ISDCI、2015年6月28日～7月3日於 ムルシア（スペイン））にてエビ類のサイトカインに関する発表をさせて頂きました。多くの先生方、研究者の方々から貴重なご意見やご質問を頂戴し、大変励みになりました。日本比較免疫学会会長の笠原正典先生をはじめ、選考委員の先生方、大会事務局の先生方、故古田恵

美子名誉会長に深く感謝申し上げます。

さて、私はこれまで無脊椎動物のサイトカインと病原体感染に焦点を当てた研究を行ってきました。13<sup>th</sup> ISDCIでは、クルマエビのマクロファージ遊走阻止因子（MIF：macrophage migration inhibitory factor）ファミリーに関する発表を行い、クルマエビのMIFファミリーと病原体感染、立体構造解析について発表させて頂きました。

MIFは、活性化T細胞が産生するマクロファ

ージの遊走を阻止する因子として 1960 年代半ばに発見された最初のサイトカインです (Bloom and Bennett, 1966)。脊椎動物において MIF は 2 種類あることが知られており、1 つ目の MIF は自然免疫と獲得免疫の両方に関与し、免疫応答、炎症、腫瘍細胞増殖、血管新生促進などの機能を持つことが知られています。MIF-2 として知られている D-dopachrome tautomerase (DDT) は、MIF と類似したアミノ酸配列を持つことから MIF 同様の機能があるのではないかと考えられていますが、生体内での DDT の生理活性については良く解っていません。エビ類の MIF については不明な点が多いため、まずはクルマエビの MIF ファミリーの同定を試み、エビ類の生体防御機構への関与を調べました。

クルマエビの MIF は脊椎動物の MIF と同様に 2 種類あり、病原体感染試験では、ビブリオ感染症の原因菌である *Vibrio penaeicida* 注射後 6 時間のクルマエビの血リンパにおいて、DDT の発現が増加することが確認できました。一方、MIF については大きな変化は認められず、また、クルマエビ急性ウイルス血症の原因ウイルスである PRDV (penaeid rod-shaped DNA virus) 注射区においては両遺伝子とも平常時と同等の発現量を示しました。これより、クルマエビにおいては DDT が細菌に対する生体防御反応に関与して

いる可能性が示唆されました。

次に、ヒトとクルマエビの MIF 間において立体構造の比較を行いました。クルマエビの MIF はヒトの MIF と同様に 3 量体を形成することが予測されました。受容体との結合部位にヒトと共通のアミノ酸残基が保存されていましたが、N-Like-Loop と呼ばれる MIF と受容体の相互作用に関与する部位および酵素活性部位では、ヒトと共通でないアミノ酸残基が数箇所認められました。クルマエビ MIF ファミリーの機能の詳細を知るべく、現在、リコンビナントタンパク質や抗体を作製し、実験を進めています。

最後になりましたが、比較という手段を用いて研究を進めることが多い私にとって比較免疫学会は、脊椎動物・無脊椎動物両方の生体防御に関する最新の知見と貴重なご意見を頂くことができる場であり、研究を進める上で大変勉強になります。13<sup>th</sup> ISDCI に出席させて頂けたこと、本当に感謝しております。また、本研究を進められましたのは、親身にご指導して下さいました先生方をはじめ、共に研究に励むメンバーや私生活を支えてくれた家族のおかげです。日々、感謝の気持ちを忘れず、懸命に研究を続けていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

§  
§

## 日本比較免疫学会第 27 回学術集会を終えて

宮台 俊明

第 27 回学術集会長、福井県立大学海洋生物資源学部

第 27 回学術集会は、平成 27 年 8 月 21 日（金）から 23 日（日）にかけて、福井県小浜市働く婦人の家で開催しました。交通の便が悪いところにもかかわらず、54 名の方が参加してください、一般演題 25 件、特別講演 1 件、シンポジウム演題 5 件、古田賞 1 件の発表がありました。

特別講演は東京大学大学院の横山先生に「魚類寄生粘液胞子虫の感染メカニズム」と題して、興味深いお話をいただきました。ヒラメクドアによる被害についても言及され、クドアがヒトの腸から侵入したのち斃死する過程で症状が現れる、という現象から、寄生虫の宿主拡大戦略にまで考察を展開されたことには刮目させられました。さらに本大会では、寄生虫をキーワードにしたシンポジウムを開催し、寄生虫免疫研究に携わる 5 名の方々に講演をお願いしました。最初に福井県大の小高氏から魚類の好塩基球の解析に関する発表がありました。今回の講演では、寄生虫が宿主の免疫機構を巧みに利用して寄生を成立させていることを示す発表が多くありました。東京医科歯科大学の太田先生の発表もそのひとつで、蠕虫による Th2 誘導を皮切りに、宿主対寄生虫の駆け引きについて非常に興味深いお話をいただきました。さらに原虫へと話題を転じ、大阪大学免疫学フロンティア研究センターの山本先生にはトキソプラズマと宿主免疫との関連について講演していただきました。宿主が寄生虫を排除するために免疫系を駆動させるのはよく理解できるのですが、一方で好中球を積極的に呼び寄せてそれに感染し、全身へと伝播するやり方には驚きました。先生

はこれをトロイの木馬と呼んでいました。最後の話題はワクチンです。金沢大学の吉田先生には新規マラリアワクチンをご紹介いただきました。マラリアワクチンを開発することは極めて難しい課題でした。先生はマラリアの各ステージに対応し、しかも液性免疫も細胞性免疫も賦活化する画期的なワクチンを開発され、本講演からは世界の人々を救いたいという先生の意味が感じられました。最後に東京大学の後藤先生から、「リバーワクチノロジー」という聞きなれない演題での講演をいただきました。これは、ワクチンとして有効な抗原をタンパク質側から見つけ出す手法であり、単純にアミノ酸配列からだけでは予測できない抗原を浮き出すテクニックには驚嘆させられました。

古田賞には九州大学の中尾実樹先生が受賞されました。比較免疫学会にはなくてはならぬ存在の中尾先生がまだ受賞されていなかったことは意外でした。ユーモアを交えた受賞講演でも先生の業績には圧倒されるものがありました。

古田奨励賞は九州大学の小林雄毅さんが受賞されました。川畑先生率いるスタッフの一連の発表は圧巻で、その代表として小林さんが受賞されたと言ってもいいかもしれません。

トラベルアワードは水産総合研究センターの稲田真理さんが受賞されました。ちょっとしたハプニングで微笑ましい一幕もありました。

私が初めて比較免疫学会に参加したのは 10



数年前にもなるかもしれません。名古屋の会場でした。そのときには、若い研究者の参画が少なくなっていることを幹事の先生方が嘆いていらっしゃいました。しかし、浜松で開催されたときにはそういった心配をしなくても済みそうだ、との発言も飛び出し、今回はそれを裏付けたように若手の研究者たちの独壇場といっても

言いすぎではないような発表でした。

免疫学は医学領域に偏りがちですが、種々の動物を実験材料として用いることによって免疫の成り立ちを描くことができ、さらに応用面にも役立つことができるはずです。今後の日本比較免疫学会の発展を祈念して、筆を納めます。

§  
§

## 日本比較免疫学会第28回学術集会へのお誘いのご案内

和合 治久  
埼玉医科大学

日本比較免疫学会第28回学術集会の学術集  
会長を仰せつかりました埼玉医科大学の和合  
治久でございます。私は1996年に開催されま  
した第8回学術集会の大会長を務めさせて頂  
きましたので、20年ぶりの担当になります。  
昨年、本学会の設立に多大な貢献をされまし  
た古田恵美子先生がご逝去され、悲しい日々  
を過ごして参りましたが、古田先生を心から  
偲ぶ意味で、先生との良き思い出がたくさん  
残され、これまでに過去2回、当学術集会の開

催場所としてきました東京医科歯科大学を会  
場に、再度、開催させて頂くことに致しまし  
た。下記の内容で開催させて頂きますので、  
多くの会員の皆様に積極的に参加して頂き、  
活発なご討論と情報交換を通して、比較免疫  
学の新たな発展につなげてほしいと切に願っ  
ております。どうぞご理解の程を宜しく御願  
い申し上げます。なお、参加および発表の申  
し込み等に関しての詳細は、改めてご案内さ  
せて頂きます。

### 記

#### 日本比較免疫学会 第28回学術集会（企画案の概要）

学術集会長：和合 治久（埼玉医科大学保健医療学部）

事務局長：中村 弘明（東京歯科大学歯学部）

事務局長補佐：木村 美智代（埼玉医科大学保健医療学部）

1. 会期：平成28年8月18日（木）～20日（土）

2. 会場：東京医科歯科大学・1号館・9階特別講堂

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45、TEL: 03-3813-6111

3. 連絡先：第28回日本比較免疫学会学術集会事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9-7

東京歯科大学さいかち坂校舎 生物学研究室、中村弘明

TEL: 03-6380-9310, FAX: 03-6380-9603, E-mail: binakamu@tdc.ac.jp

〒350-1241 埼玉県日高市山根1397-1 埼玉医科大学保健医療学部臨床検査学科

和合治久 TEL&FAX：042-984-4879 E-mail: h\_wago25@saitama-med.ac.jp

木村美智代 TEL: 042-984-4848 E-mail: kimrami@saitama-med.ac.jp

#### 4. 日程：

第1日目：8月18日（木）

午後〈開会の辞〉

〈一般講演〉

第2日目：8月19日（金）

午前〈一般講演〉＊昼休み：奨励賞選考会議

午後〈総会、古田賞&奨励賞発表・表彰〉

〈古田賞受賞者講演〉

〈シンポジウムⅠ〉「比較免疫研究の温故創新」(4演題)

〈特別講演〉

〈記念撮影〉

〈懇親会〉東京ガーデンパレス「平安の間」

第3日目：8月20日（土）

午前〈シンポジウムⅡ〉「無脊椎動物の共生・寄生の免疫機構」(3演題)

#### 5. 参加費

正会員、非正会員：5,000円、博士課程後期学生：3,000円、修士課程&学部生：無料

#### 6. 懇親会費

正会員：4,000円、博士課程後期学生：3,000円、修士課程&学部生：2,000円

§

§

## 事務局からのお知らせとお願い

### 古田優秀論文賞の創設について

笠原会長のご挨拶にありますように、故古田恵美子名誉会長から学会へご寄付があり、比較免疫学をリードする若手研究者の育成のため、新たに「古田優秀論文賞」を設けました。つきましては、来年度の古田賞の募集と同時に古田優秀論文賞の募集を行います。応募締め切りは平成 28 年 4 月末を予定しております。若手研究者の方々はふるってご応募下さい。

### 日本比較免疫学会 古田優秀論文賞 授与規程

- 1) 賞の名称は古田優秀論文賞とする
- 2) 優秀論文の選考は毎年、基本的に相対評価に基づいて学術委員会が行い、基準については明文化しない
- 3) 同一あるいは大幅に重複する研究内容に対して、優秀論文賞と古田奨励賞の重複受賞は認めない
- 4) 過去の会員履歴および年齢は問わない（ただし申請書にはこの情報を記載してもらう）
- 5) 受賞対象論文は前年度（前年4月から当該年の3月まで）に発表あるいは受理された原著論文とする
- 6) 受賞対象者は論文の第一著者とする
- 7) 第一著者が複数名の時は、全員が受賞者となるが、賞金は5万円を分割する
- 8) 受賞者には学術集会での講演と JADCI News への寄稿をお願いする

### 第 29 回学術集会の開催予定

会期：平成 29 年未定

会場：未定

学術集会展長：笠原 正典 先生（北海道大学）

### 事務局からの問い合わせ（9月25日会費納入者）

9月25日に牛込若松町よりJADCI一般会員年会費が振り込まれておりますが、ご依頼人の記入がありません。お心当たりのある方は、ご利用明細書を添えて、事務局宛にご連絡下さいますようお願い申し上げます。

### 所属・住所が変わったら至急ご連絡を

所属や住所に変更が生じた場合には、学会事務局まで至急ご連絡下さい。E-mail か Fax でお願いいたします。書式は特にありませんので、下記の情報を事務局までご連絡下さい。

氏名、住所、所属、電話/Fax 番号、メールアドレス

### News へのご寄稿を募集しております

エッセイ、学会参加記、JADCI へのご意見・ご提言などをお待ちいたします。事務局までお寄せ下さい。また、News を充実させるため、その構成や編集についてのご意見も歓迎いたします。

### 新会員の入会を歓迎いたします

皆様のお近くに、比較免疫学にご興味の方がおられましたら、本学会への入会をぜひともお勧めいただけますようお願い申し上げます。電子メールで下記の情報を事務局までお知らせ下さい。

事務局メールアドレス：jadci2office@gmail.com

年会費（一般の個人会員：5000 円、博士後期課程院生：3000 円、入会金なし）の振替用紙を郵送いたします。

1. 氏名
2. 氏名（ローマ字）
3. 所属
4. 連絡先（所属先か自宅かを明記して下さい）  
郵便番号・住所・電話/Fax 番号
5. E-mail アドレス
6. 専門分野
7. 学生会員の場合は、指導教員の名前と学生証のコピーあるいはスキャン画像

§

§

## 平成 27 年度 日本比較免疫学会総会議事録

開催日時：平成 27 年 8 月 22 日(土)13 時 15 分～

場所：小浜市働く婦人の家 3 階 大会議室

議長：笠原正典会長

### 審議事項

#### 1. 第 29 回学術集会について（笠原）

平成 29 年度学術集会は札幌市において、笠原会長を集会長として開催することが提案され、承認された。

#### 2. 日本比較免疫学会名誉会長古田恵美子先生への感謝状の贈呈について（笠原）

本学会の設立時からの長年のご貢献ならびに各種学会賞（古田賞、古田奨励賞、古田トラベルアワード）の設立にたいして、学会として感謝の意を表すため、故古田恵美子先生に感謝状を贈呈することが承認された。

感謝状の内容が紹介された。

#### 3. 経理状況（決算案と予算案）について（倉田）

##### （1）平成 26 年度会計報告・監査報告について（資料 1）

資料 1 がスクリーンで示され、平成 26 年度の決算について説明があった。

川畑俊一郎、中西照幸両会計監査役員の監査により、会計は正確、適正に処理されていることを確認した旨が報告された（中西）。

内容について承認された。

##### （2）平成 27 年度中間報告・予算について（資料 2）

資料 2-1 がスクリーンで示され、平成 27 年度予算について説明された。

収入の部に記載の会費は会員全員が支払ったとの前提で算出されている。

また、平成 27 年度決算の中間報告が示された（資料 2-2）。

内容について承認された。

#### 4. 会則の改正について（資料 3）（倉田）

古田トラベルアワードについて、資料 3 のとおり会則に追加する点が説明され、承認された。

トラベルアワードが特定の学会出席に対してであるかの質問があった（名誉会員吉田彪先生）。

国際比較免疫学会への参加に対してのみの補助であり、古田トラベルアワード募集要綱に明記してある点が説明された。



## 5. その他

特になし

### 報告事項

#### 1. 日本比較免疫学会名誉会長古田恵美子先生追悼文集の発行について（笠原）

昨年度、中村弘明先生、和合治久先生が中心となって編集頂き、発行されたことが報告された。

#### 2. 会員の動向について（資料4）（倉田）

資料4がスクリーンで示され、説明があった。3年間の会費未納者の自動退会により納入率が上昇した点が説明された。

会則により、学術集会の講演者は本学会の会員に限ることが定められている。本年度、初めて学術集会で発表された方は入会手続きをしていただくよう、お願いがあった。

#### 3. 会員名簿の発行について（笠原）

電子媒体で発行した。電子的に送付できない会員1名については印刷して郵送した。

#### 4. 第27回学術集会について（宮台）

参加者40名、シンポジストを含め45名（当日参加数名）である。

参加について学術集會長の宮台俊明先生より感謝の言葉があった。

#### 5. 平成27年度日本比較免疫学会古田賞・古田奨励賞・古田トラベルアワードについて（笠原）

古田賞：中尾実樹教授（九州大学）に授与された。

古田奨励賞：13名の候補者から、投票により小林雄毅氏（九州大学）に授与することが決定した。

古田トラベルアワード：2名から応募があり、学術委員の採点により、稲田真理氏（水産総合研究センター）に授与することが決定された。稲田氏は本年度スペインで開催された国際比較免疫学会に参加し、研究成果を発表したことが報告された。

#### 6. DCI誌掲載のConference Reportについて（笠原）

DCI誌編集長からJADCIのConference Reportを今後は掲載しない旨の連絡があった。

本学会の英文ホームページにConference Reportを掲載した。

中尾副会長を通じて、国際比較免疫学会のホームページにリンクを貼っていただくよう同学会に依頼する予定であることが報告された。

#### 8. 次期会長選挙について（笠原）

次期会長の選挙が開催される。詳細は書面で連絡がある。

会則に、役員会は会長候補者を推薦できるとある。役員会は、次期会長候補として中西照幸先生を推薦することが報告された。

#### 9. 次期学術集会（第28回）準備状況について（和合）

来年度は和合治久先生（埼玉医科大学）を学術集会長として、8月18日～20日に東京医科歯科大学で開催されることが報告された。

日程案等の詳細が企画案により示された。

たくさんの会員の参加を期待している旨が説明された。

#### 10. その他

（名誉会員吉田彪先生）

古田賞、古田奨励賞については学会の活性化に役立ってきたように思うが、古田トラベルアワードについても、学会活性化に役立つ必要がある。有効な使い方を検討されたいとの発言があった。そして、他の学術集会への参加補助、スタートアップ研究経費の補助、優秀論文賞の表彰といった提案がなされた。

また、比較3学会の合同学会開催についての質問があった。

笠原会長よりすぐの開催は他の2学会の都合もあり無理である点が説明された。合同（同時期）開催の検討について説明があった。

§

§